

講義コード		科目区分	専門教育科目
(フリガナ)	コクサイコミュニケーションロン	(フリガナ)	ユン チャンギ
授業科目名	国際コミュニケーション論①①②	担当教員名	尹 燦奇
英文授業科目名	International communications theory		
基準年次(開講期)	2年(前期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	月3限/浅草・水4限 金2限/池袋		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	文化、コミュニケーション、アイデンティティ、カルチャーショック		
授業概要・目的	文化的背景が異なる者とコミュニケーションをする際に生じる問題点や解決法、メカニズムについて知る。具体的には、 ①国際コミュニケーションに影響を与える主要因について理解する。 ②コミュニケーション行動のメカニズムについて理解する。 ③国際コミュニケーションから生じる誤解や摩擦を避けるための解決方法について考察する。		
到達度評価の評価項目	文化、コミュニケーション、アイデンティティについて説明することができる。 コミュニケーション行動のメカニズム理論(スキーマ理論)について説明することができる。 国際コミュニケーションから生じる誤解や摩擦を避けるための解決方法について、具体的な例を挙げながら説明することができる。		
第1回	ガイダンス 授業の概要、進め方		
第2回	文化とコミュニケーション 国際コミュニケーションの基礎概念		
第3回	自己とアイデンティティ 自己概念、少数派アイデンティティ、主流派アイデンティティ		
第4回	国際コミュニケーションの障壁 国際コミュニケーションの障壁となる偏見、ステレオタイプ、差別などについて説明		
第5回	深層文化 価値観、学習、思考パターン		
第6回	言語コミュニケーション 言語と思考の関係、コミュニケーション・スタイルの相違		
第7回	非言語コミュニケーション 非言語メッセージの種類、非言語メッセージとコミュニケーション・スタイル		
第8回	国際コミュニケーションの実例① 国際コミュニケーションの具体的理解のために映像資料を用いて解説		
第9回	国際コミュニケーションの実例② 国際コミュニケーションの具体的理解のために映像資料を用いて解説		
第10回	カルチャーショックと適応 異文化への接触をから生ずるカルチャーショックとアイデンティティの変化		
第11回	コミュニケーション行動のメカニズム スキーマ理論とコミュニケーション		
第12回	国際コミュニケーションの実践・応用 対人コミュニケーション(文化的に異なる背景をもつ友人や恋人との関係構築)		
第13回	国際コミュニケーションの教育・訓練 国際コミュニケーションの能力と育成		
第14回	国際コミュニケーションの研究 国際コミュニケーション論の歴史、特徴、領域、方法		
第15回	まとめ 第1回から第14回までの授業の振り返り		
教科書・参考書等	各回、資料を配布する。以下、予習・復習にあたる参考図書を紹介する。 ・石井敏ほか(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』、有斐閣選書 ・西田ひろ子[編](2000)『異文化間コミュニケーション入門』、創元社 ・池田理知子・E.M.クレーマー(2000)『異文化コミュニケーション・入門』、有斐閣アルマ		
授業で使用する機器等	パワーポイント、映像資料		
予習・復習へのアドバイス	前半の学習目標の到達度をチェックするために第9回にレポート課題を出す。参考図書・配布資料を読んで予習・復習をしておくこと。		
履修上の注意・受講条件等			
成績評価の基準等	期末テスト70%(選択式問題と記述式問題で評価する。) レポート20%(映像資料や講義内容に関するレポート課題を出す。) 授業に取り組む姿勢10%(授業への積極的参加は評価する。)		
メッセージ	私語は禁止。授業と関係のない情報機器の使用禁止。		
オフィスアワー	月・火・水・金の昼休憩時間(12:00-12:45)		
その他			